

## 2. ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館における 外邦図、内邦図の新たな発見と確認 Captured Japanese Maps: Discovery and Cataloging at the University of Hawai'i at Mānoa Library

カラージェラス・ミーゲン  
(ハワイ大学マノア校図書館  
政府刊行物及び地図部門司書)

Meagan Calogeras  
Support Librarian  
Government Documents & Maps Department  
University of Hawai'i at Mānoa Library

### はじめに

本稿はハワイ大学マノア校ハミルトン図書館の Government Documents and Maps Department (政府刊行物及び地図部門) に所蔵する外邦図や大日本帝国内邦地図に関する確認、識別、分類作業の現状報告である。これらはアメリカでは “Captured Japanese Maps” (接收した余剰地図) と呼ばれ、日本領土 (国内図) も含まれている。

2004 年の「ハロウィーンイブ鉄砲水」に襲われてすでに十年近くが経過したが、ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館は完全復旧にはまだ至っていないといえよう。地下に位置する Government Documents and Maps Department は特に洪水被害がひどく、何万枚の地図の損失があったかは現在に至っても正確にはわかっていない。また、寄贈された地図の整理が未だに続いており、永遠の課題となるかと思われる。

本部門に残された外邦図、内邦図はほぼ 3 千枚で他のアメリカや日本の大学に比べれば極めて少ないコレクションだが、ようやく分類作業が終わりに近づき、日本の外邦図ファンに向けて、筆者の個人的体験を通して作業内容を報告したい。

筆者が初めて外邦図に係わったのが 2011 年、本校の図書館情報学部 (LIS) の大学院生として GIS と地図のインターンシップに参加したときであった。それまで、洪水のためか、あるいは、

人手が足りなかったのか、なにしろ本部門の優先は太平洋に関する地図や画像であるから、外邦図はいつまでも後回しで誰も手をつける余裕がなかったように思われた。筆者はたまたま日本語が出来たので、「日本の地図の仕事をお願いします」という具合で始めたのがきっかけであった。

ここ数年外邦図研究が進歩し、日本をはじめ世界にわたる図幅情報と学問的発表などが、未だ新米の筆者に大いに参考になった。

### 分類の経緯

まず注目していただきたいのは、アメリカでは実に細かい分類方法を使用する点である。日本では地域とシリーズによって並べ、ID を連番で振っていく目録の作り方である。基本的にはアメリカでは索引図よりも分類番号が用いられる。Library of Congress Classification (LCC、アメリカ議会図書館分類表) という多くの大学が使用している図書分類方法があるが、まず区域別の段階で地域、国、州、市、などのレベルに区分し、そこからシリーズ (日本の外邦図の場合は縮尺) または発行年を付け加え、発行国名を最後に付けて図幅番号を組み合わせ作り上げていく。番号を見れば、どの区域レベルで描かれているのかがわかるのである。簡単にいえば、地図分類番号でその地理的情報がかなり得られる。しかし、その図幅番

号の作り方は当然司書の仕事によるもので、実物の範囲、手元にあるのかないのか、または解釈などで図幅番号がかなり違ってくるのである。したがって図幅番号より図幅情報によって、同じ地図または海図を描写しているのかどうか判断できる。日本の東北大学の外邦図目録データのデジタル画像で確かめるという段階まで未だ達成していないからである。

筆者の課題は、既に他のアメリカの大学とアメリカ議会図書館に所蔵されている情報を参考に、当館の外邦図、内邦地図の図幅情報をできるだけ整理するというものであった。しかし、外邦図の図幅番号は多種多様で大変混乱しやすかった。

一般的には、時間、スタッフの技術、所蔵量、金銭的状况といったさまざまな条件により識別も分類方法にも差が出てくる。図幅情報にはごく簡単なものから複雑なものまであり、後者にはアー

キビストによって文書で説明が書き込まれている図幅情報もある。司書は、図書館利用者、外部の研究者が外邦図をどのように検索し研究できるのかという点を踏まえて分類し、所蔵と宣伝を行うことを目的としている。

正しく充実した図幅情報を作り上げるという難しい課題に筆者は挑戦したのだが、ご存知の通り、外邦図は知れば知るほど深味が出てきて、単純な図幅情報では満足できなくなる。したがって、時間が許す限り相手（利用者）に必要な情報を記入することをお勧めする。

## 目録

一つのシリーズの目録もかなり工夫した物があり興味深かった。今回は University of California, Berkeley Library のシリーズの目録地図を Adobe® Photoshop で修正し、クレジットを表記

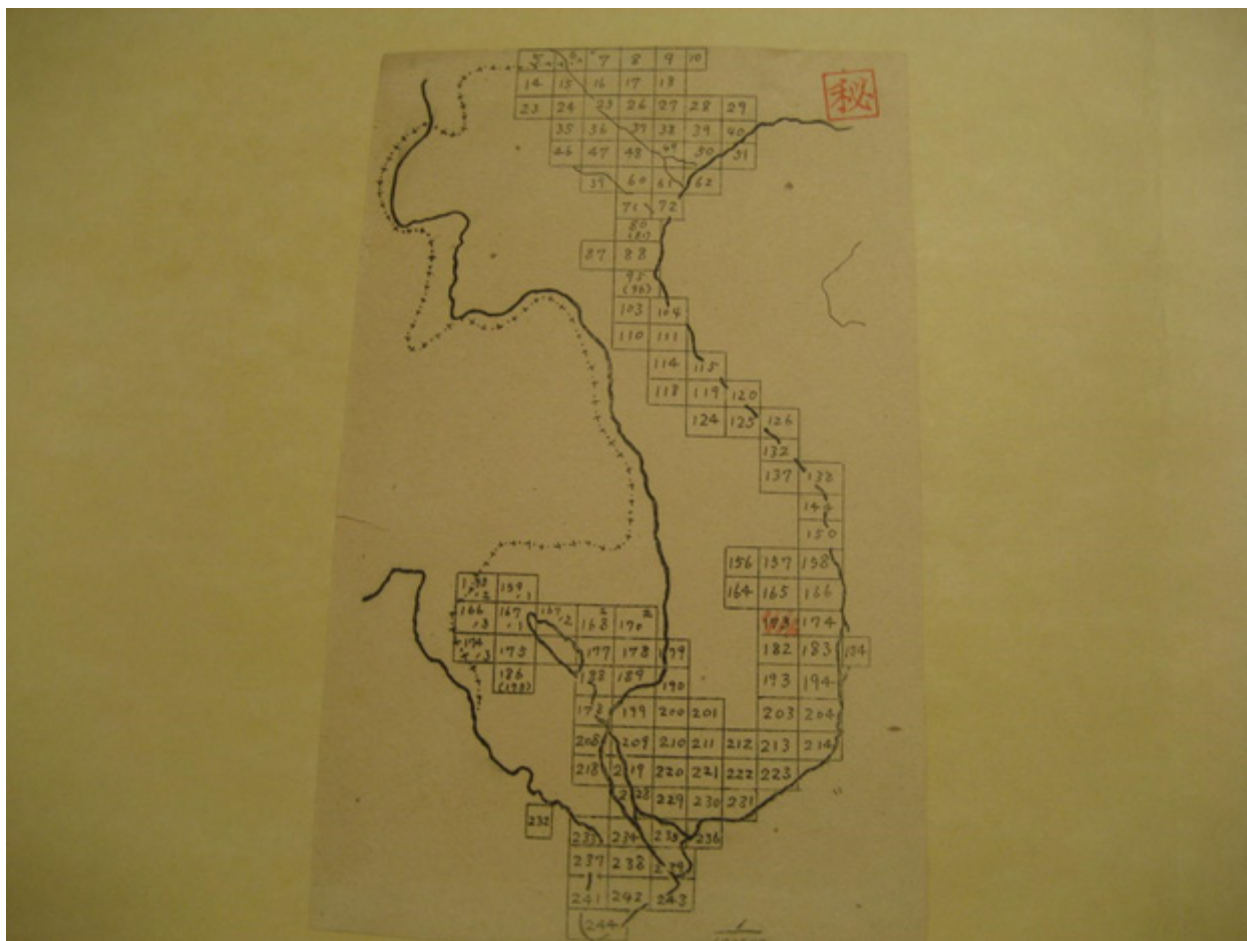


図 1 : 十万分一佛領印度支那

Call number: G8005 s100 .J3

し用いた。次回は GIS ソフトを使い目録地図を作成するのがよいかと考えられる。

さて、ハミルトン図書館所蔵の 3 千枚の地図の分類作業はほぼ終わったが、現在 EXCEL®に記入してあるのみであり全体の目録はまだ出来ていない。ところで、クラーク大学は所蔵の外邦図の目録を作成したが、詳細な図幅情報がないためシリーズ確認は困難である<sup>2)</sup>。

筆者が発見した日本軍の目録は一つだけである。これは十万分一佛領印度支那のもので目録に関する詳細事項が何も書かれていないのが残念である(図 1)。

### シリーズの問題点

アメリカの外邦図を分類するのにもう一つ大事な点に注目していただきたい。一面の地図に関する知識だけではなく、その一面が、同じセットまたはシリーズの他の面とどのような関係を持っているのかということである。外邦図の場合は、一面の地形図がセットあるいはシリーズに属していることが多く、その一面だけというのはほとんどない。シリーズとして LCC 式で図幅番号を作るのだが、完全なセットで AMS (Army Map Service) から図書館に配分されたとは限らないし、損失していたり、全体がつかめないときもある。その場合、日本語で書かれている番号、地図に載っている索引図、左下に書かれている注意事項などで多少はシリーズが把握でき、どのような分類番号が適切なのか初めてわかる。その際、日本国会図書館の NDL-OPAC が大変役に立った。この事に関して後ほどもう少し詳しく説明させていただく。

アメリカでは、外邦図の一面のタイトルではなくシリーズ名で LCC により整理されている。例えば一面のタイトルが「日本北部-シベリヤ東部」だとすれば、そのシリーズ名の二百万分一航空図から図幅番号を作成し、その内容の一部として「日本北部-シベリヤ東部」の面が図幅情報に記入される。大きいセットの場合、一面一面のタイトルより、番号「no. 11-17」といった感じで目録の図と照らし合わせないとわからないのである。要す

るに個々の地図へのアクセスが優先されないカタログメソッドであるが、その図幅情報によって全体のシリーズが把握できるという、簡便な方法である。

この作業を通してわかったことは、同じと思われる地形図でも LCC 分類番号が大学によって違うことである。例えば「西伯利十万分一圖」は、場合によっては「満州十万分一圖」や「極東十万分一圖」と一緒に分類し、一つの大きなシリーズにしたりする。それは前にも触れたように、それぞれの大学の事情(所蔵されている枚数など)や必要性に応じての識別作成であり、それもカタログ作業の面白いところでもある。しかし外邦図を見慣れてくると、「西伯利十万分一圖」は「極東十万分一圖」とは異なる系列のものだとわかるようになるし、また「西伯利十万分一圖」という同じシリーズ名でも、製版、発行年、刷りや凡例などによって種類が異なる。他のシリーズの複数発行のもので、秘密段階のアップグレード、基準グリッド、磁気偏差などの付加など、第二次世界大戦中に、製版や発行状況がダイナミックに変化していることがわかる。そうすると図幅情報も異なるものにならない。今回、図幅番号を作るに当たって一番の挑戦はやはりこういったソ連邦、支那、満州などの何百枚もの地形図の分類であった。

ここで OCLC®という世界最大の図書館(研究機関も含めて)のメンバーネットワーク書誌情報データベースに触れたい。会員が所有し会員が管理する OCLC の一つの製品・サービス提供は、WorldCat®という国際的図書館総合目録である。OCLC メンバー図書館情報専門家の資料情報の提供を通じて共有構築されたグローバルコレクションといえよう。現在 WorldCat には 170 ヶ国・地域にわたる約 72,000 の図書館が参加し、44 の国立図書館も含まれており、所蔵のコレクションや参考文献を公開している<sup>3)</sup>。日本国会図書館も現在 5,028,262 のオリジナル所蔵レコードを提供している<sup>4)</sup>。(日本では紀伊國屋書店が OCLC サービスの代理店となっていて、国内の学術・研究機関が

使用している。)

さて、他の研究機関が類似する外邦図を所蔵しているのかを検索するのに OCLC/WorldCat がまず第一のステップとなる。そして、適切な図幅情報を OCLC からコピーした後、本図書館の所蔵記録にそのままの LCC 分類番号を使用する事が一番簡単だが、それが不適切になる場合がある。より細かい区別が必要となるからである。また、OCLC にも見つからず当館の枚数が少ない (例えば損失で) 場合は、地図に書かれている番号、記号、地名などからシリーズを想定し、新しい図幅番号を作り上げることになる。(これは「call number construction」と呼ばれている。)

「西伯利」関係の地図に関して、日本国会図書館の情報が大変役立った。WorldCat で "Shiberi" を検索すると (OCLC 加盟ライブラリ)、現在「西伯利」関係の外邦図の情報レコードが 17 個見られる<sup>5)</sup>。「西伯利」を「Shiberi」と読み取っている英語の図幅情報があり、その中にはアメリカ議会図書館の所蔵レコードも含まれている。日本の歴史において、西伯利亚、シベリア、西伯利、シベリヤと様々な書き方があったが、筆者は英語の図幅情報を使用し、「西伯利」を「Shiberi」と読み取り、図幅情報を作り上げてきた。「伊太利」を「イタリア」と読むように、外国人には無理もない単純なミスと考えられる。日本国会図書館の NDL-OPAC の検索で振り仮名が表示されている図幅情報に助けられた。「Shiberi」と振り仮名が打たれているレコードはなかったからである。(日本語が母国語でないカタログ作業に取り組む外国人司書には NDL-OPAC が強い味方となるに違いない。)このような間違いの発生は WorldCat 共同制作の過程の中で仕方のない事ではあるが、メンバー間の指摘により訂正されることもある。

他の図書館に所蔵されているかどうか不明の外邦図に関しては、詳細な図幅情報を作成するよう心掛けた。アメリカの大学の図幅情報は必ずしも OCLC にアップロードされないので、WorldCat 検索しても現れないこともある。外邦図目録データなども直接その大学の図書館 OPAC または

WEB サイトを検索しないと重要な情報を見逃すおそれがある。

### 特殊な外邦図の所蔵？

最後に、当館は特殊な外邦図を所蔵しているのではなかろうか。図 2 に見られる、インク筆で軍事的作戦情報が書かれた、軍事極秘扱いの「呂宋島附近二十万分一地誌圖 (第一號)」などは良い例である。地図は 53 cm×73 cm (図の縦横幅)、紙上 64 cm×93 cm で昭和 13 年に陸地測量部によって製版されている。ベースとなる地図は大正 13 年製版、同 14 年発行の「アパーリ 二十万分一圖呂宋島近傍」である。図 3 (図 2 の拡大) のように、兵隊の移動作戦が描かれており、筆者は「M 方面」とは「Manila」と考えている。この呂宋島近傍シリーズは共 14 面から構成されている。

その他珍しいと思われる当館所蔵の外邦図、内邦地図 (サイズの指定がない場合は地図の図郭線からの数字) :

- トロキナ飛行場 (Bougainville Island) : 発行委細不明 一面 参謀本部 昭和 19 年 1:20,000 46×82 cm G9282.B6P61 s20 .J3
- 五万分一陸海偏合圖 : サイパン島及テニアン島 : 一面 参謀本部 昭和 19 年 111×79 cm G9412.S3P5 1944 .J3
- 要圖 (空中寫真測量) タイ國五万分の一圖 ソンクラー : 二面 参謀本部 昭和 16 年 紙上 47×59 cm 以内 G8028.S6 1941 .J3
- 蘇滿方面五十万分一地誌圖 ウルシアとウラン・ウデ : 二面 参謀本部 昭和 15—昭和 19 年 76×74 cm 以内 (カタログ未完成)
- サイパン島至ポナペ島 水路部秘第 1063 號 : 一面 [海軍省水路部] 昭和 15 年 紙上 77×107 cm G9406.P5 1940 .J3
- 小笠原群島至マーシャル諸島 : 一面 昭和 16 年 1:3,000,000 (カタログ未完成)
- 十万分一陸海編合圖 アル諸島 : 二面 参謀本部 昭和 19 年 紙上 75×100 cm 以内 G8132.A7 1944 .J3





図 2 : 呂宋島附近二十万分一地誌圖 (第一號)

Call number: [G8062.L8 s200 .J3](#)

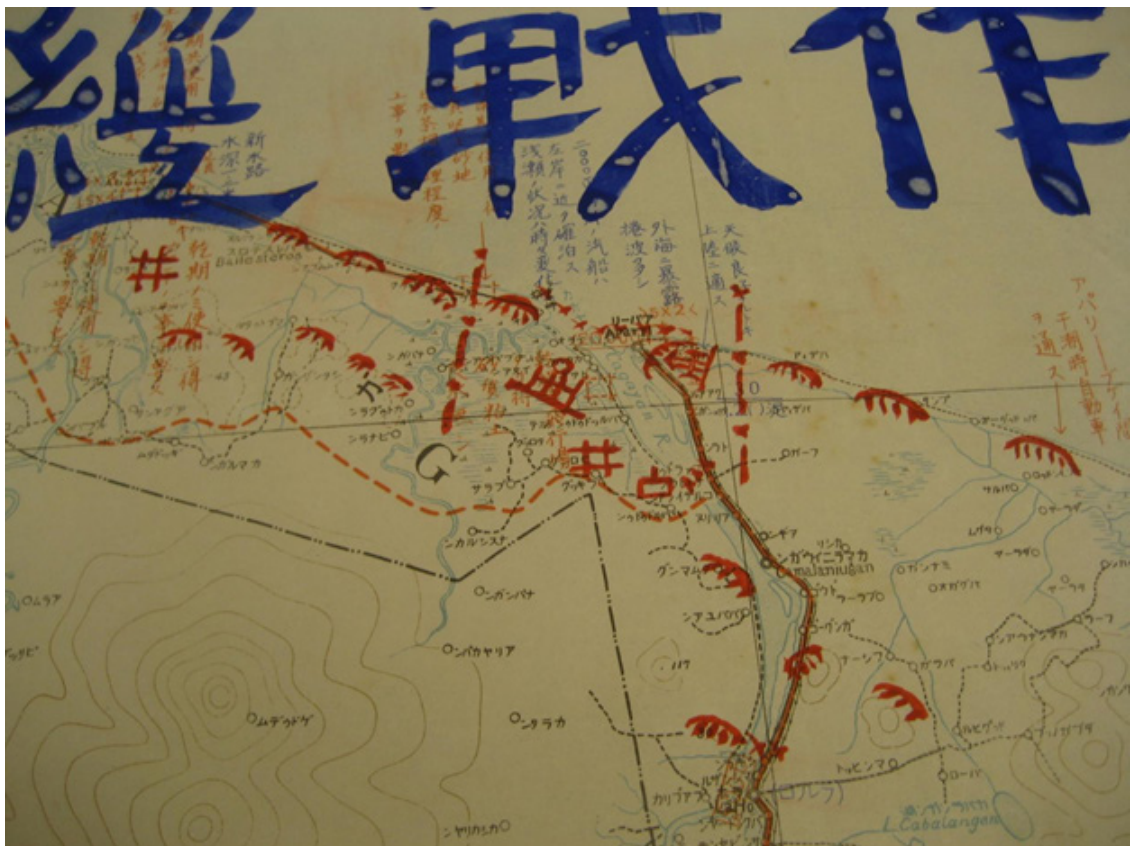


図 3 : 呂宋島附近二十万分一地誌圖 (第一號) (図 2 の一部を拡大)

(シリーズの一部)

- 集成五万分一地形図 [マルタ㊟] : 四十六面  
参謀本部 昭和 20 年 紙上 115×82 cm 以内  
G7960 s50 .J3 (カタログ未完成)

などがある。なお、日本国会図書館所蔵のもの  
と製版年が異なっていたり、タイトルが微妙に違っ  
ていたりなど疑問点がいくつかみられる。

## まとめ

以上、ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館の  
Government Documents and Maps Department  
が所蔵する外邦図や大日本帝国内邦地区の図幅情  
報作成と確認の報告である。筆者は OCLC  
/WorldCat、NDL-OPAC、日本の外邦図目録デー  
タなどの多種のシステムを使用することにより、  
外邦図の奥深さを実感することができた。今後、  
当館所蔵の外邦図、内邦図に関する新たな発見が  
あった場合には、図幅情報がアップデートされる  
であろう。

なお、筆者は今後英語の外邦図、内邦図の  
LibGuide (道しるべのようなもの) を作成する予  
定である。LibGuide とはアメリカの大学図書館  
で最も多く使われている図書館所蔵の電子利用ガ  
イドで、一般ガイドから専門学術分野のガイドが  
あり、アメリカでは誰もが研究の出発点として使  
用できる。どこの大学の WEB サイトにアクセス  
しても自由に LibGuide の検索し使用できるのが  
特徴で勉強と研究の強い味方である。これは  
“Captured Japanese Maps”の識別、分類、及び  
カタログ作業のもう一つのツールとなるであろう。

## 謝辞

G. Salim Mohammed 氏、Ross Togashi 氏、  
Michael Chohey 氏、Gwen Sinclair 氏、Mabel  
Suzuki 氏、Matsufuji-Flynn 育美氏にいろいろとご  
助言をいただきましたことに心より謝意を表します。  
また、この報告における不備や誤りは全て筆者の責  
任である事を申し上げます。

## 注

- 1) 山本 (2013 : 27) を参照。
- 2) <http://www.clarku.edu/research/maplibrary/japanese/index.cfm>
- 3) <http://www.oclc.org/en-US/worldcat/catalog/national.html>
- 4) 2014 年 7 月現在。
- 5) OCLC Connexion WorldCat Search Truncated List: (kw:shiberi and la:jpn) and mt:map (2014 年 7 月 14 日にアクセス)

## 参考文献

- 今里悟之・久武哲也 2002. 在アメリカ外邦図の所蔵  
状況—議会図書館・AGS Golda Meir 図書館・ハ  
ワイ大学ハミルトン図書館の調査から—。『外邦図  
研究ニューズレター1号』33-36、大阪大学文学研  
究科人文地理学教室。
- 外邦図研究グループ編 2004. 『外邦図研究ニューズ  
レター 2号』大阪大学文学研究科人文地理学教室。  
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/geography/gaihozu/>  
(2014 年 3 月 22 日にアクセス)
- 紀伊國屋書店「OCLC Online Computer Library  
Center」  
<http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/oclcetop.htm>  
(2014 年 7 月 18 日にアクセス)
- 小林茂解説 2008. 『「外邦測量沿革史草稿」解説・総  
目次』不二出版。
- 小林茂 2012. アメリカ合衆国で第二次世界大戦後に  
AMS (Army Map Service) から“Captured Maps”  
(ドイツと日本から接収した地図) を配分された  
大学と図書館のリスト。『外邦図研究ニューズレタ  
ー9号』67-73、大阪大学文学研究科人文地理学教  
室。
- 清水靖夫 2005. 第二次世界大戦末期の内邦図につい  
て。『外邦図研究ニューズレター3号』52-60、大  
阪大学文学研究科人文地理学教室。
- 塚田建次郎・富澤章・塚田野野子 2005. 終戦前後の  
陸地測量部。『外邦図研究ニューズレター3号』  
11-22、大阪大学文学研究科人文地理学教室。  
東北大学附属図書館／理学部地理学教室「外邦図デ

- デジタルアーカイブ」  
<http://chiri.es.tohoku.ac.jp/~gaihozu/index.php?lang=en-US> (2014年3月15日にアクセス)
- 山本健太 2013. 台湾視察の報告. 『外邦図研究ニューズレター10号』25-29、大阪大学文学研究科人文地理学教室.
- Anderson, J. M. 2001. Forgotten battles, forgotten maps: Resources for reconstructing historical topographical intelligence using Army Map Service materials. *Historical Geography* 29: 79-91.  
<https://ejournals.unm.edu/index.php/historicalgeography/issue/view/460/showToc> (2014年5月30日にアクセス)
- Davis, H. O. & Chervinko, J. S. 1999. Map Cataloging and Classification: The Basic Who, What, and Where. *Cataloging & Classification Quarterly* 27:1-2, 9-37, DOI: 10.1300/J104v27n01\_02 (2014年5月25日にアクセス)
- Kobayashi, S. 2012. Japanese mapping of Asia-Pacific Areas, 1873-1945: An Overview. *Cross-Currents: East Asian History and Culture Review March 2012*.  
<http://cross-currents.berkeley.edu/e-journal/issue-2> (2014年3月22日にアクセス)
- OCLC (Online Computer Library Center, Incorporated)  
<http://www.oclc.org/en-US/about.html> (2014年7月18日にアクセス)
- Parker, V. 1999. Cataloguing Map Series and Serials. *Cataloging & Classification Quarterly* 27:1-2, 65-101, DOI: 10.1300/J104v27n01\_04 (2014年5月25日にアクセス)
- Wigen, K. 2012. Japanese Imperial Maps as Sources for East Asian History: The Past and Future of the Gaihōzu. *Cross-Currents: East Asian History and Culture Review March 2012*.  
<http://cross-currents.berkeley.edu/e-journal/issue-2> (2014年3月22日にアクセス)